

# 公共事業再評価調査

整理番号 H20 - 28

担当部課名	県土整備部 河川砂防課	電話番号	0 1 7 - 7 3 4 - 9 6 6 3
		E - MAIL	kasensabo @pref.aomori.lg.jp

再評価実施要件	未着工	長期継続 ( 年 )	再評価後 ( 5 年 )	その他 ( )
---------	-----	------------	--------------	---------

## 1 事業概要

事業種別	河川事業		事業主体	県 市町村 その他 ( )			
事業名	総合流域防災事業		地区名等	新城川	市町村名	青森市	
事業方法	国庫補助	県単独	財源・負担区分	国 50 %	県 50 %	市町村 % その他 %	
採択年度	昭和 41 年度 ( 用地着手 昭和 41 年度 / 工事着手 昭和 41 年度 )						
終了予定年度	平成 23 年度 ( 平成 年 月 工期変更 当初計画時 平成 年度 )						
事業目的	自然環境の保全に配慮しながら河川改修工事を行い、新城川沿川の人家や田畑を洪水被害から守る。						
主な内容	区 分		再評価時	再々評価時	増 減		
	築堤		11,240 m	11,240 m	0 m		
	掘削		5,620 m	5,620 m	0 m		
	護岸		11,240 m	11,240 m	0 m		
	J R 橋		2 箇所	2 箇所	0 箇所		
	道路橋		14 箇所	14 箇所	0 箇所		
事業内容は、前回再評価時と比較して変更はない。							
事業費	再評価時総事業費 10,000 百万円			( 単位 : 百万円 )			
		~ 17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	小 計	21 年度 ~ 合 計
	計 画 (うち用地費)	( )	( )	( )	( )	9,320 ( 4,951 )	650 ( 346 ) 9,970 ( 5,297 )
	年 月変更						
実 績 (うち用地費)	7,568 ( 4,038 )	512 ( 267 )	1,030 ( 877 )	380 ( 49 )	9,490 ( 5,231 )	480 ( 66 ) 9,970 ( 5,297 )	

## 2 評価指標及び項目別評価

### (1) 事業の進捗状況

( A ) ・ B ・ C

事業の進捗状況	事業費割合 (うち用地費)		計画全体に対する進捗	95.2 % [ / ]	年次計画に対する進捗	101.8 % [ / ]	
			( 98.8 % ) [ / ]		( 105.6 % ) [ / ]		
	主要工種 毎割合 (事業費)	掘削工 ( 641.3 百万円 )		84.3 %		%	
		護岸工 ( 1,480.0 百万円 )		95.5 %		%	
道路橋 ( 826.5 百万円 )			95.5 %		%		
説 明	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街化区域内の整備を進めてきており、JR奥羽本線津軽新城駅付近までの改修は完了している。</li> <li>今後は、上流区間の河道の改修を進め、平成23年度完了を目指す。</li> </ul>						
問題点・解決見込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業を進めるにあたっての阻害要件はなく、順調に事業の進捗を図ることが出来る。</li> </ul>						
事業効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>河口から約4,500mの区間については計画高水流量360m<sup>3</sup>/Sの流下能力が確保されており、近年の大雨においても当該区間では浸水被害が発生しておらず、一連の効果を発揮している。</li> </ul>						

## (2) 社会経済情勢の変化

(A) ・ B ・ C

社会的評価	全国・本県における評価	<p>【全国の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の異常気象により、全国各地で局地的豪雨による氾濫被害が発生しており、これら河川の災害対策及び治水安全度の向上が急務となっている。</li> <li>・近年の河川環境に配慮した河川整備に対する関心の高まりに対し、自然環境に配慮した河川整備が求められている。</li> </ul> <p>【県内の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内においても、平成14年、平成16年・平成18年・平成19年等豪雨による氾濫被害が各地で発生しており、今後とも治水安全度の向上を図るために河川改良事業を進めていく必要がある。</li> <li>・地域住民の水辺環境への関心は高く、自然環境に配慮した河川整備が求められている。</li> </ul>	
	当地区における評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現況の流下能力が極端に低いため、平成2年・14年と床上浸水・床下浸水被害が発生していることから、治水安全度の向上を図る必要がある。</li> </ul>	
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新城川は二級河川であり、河川管理者は県であることから、事業主体は青森県となる。</li> <li>・想定氾濫区域内には人家が約1,300戸あり、想定氾濫被害額は約480億円と見込まれる。</li> </ul>	(a) . b	
適時性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新城川沿川では、平成2年9月の浸水被害（浸水家屋20戸、農地10ha）をはじめ、平成14年にも浸水被害が発生している。</li> <li>・未改修区間の現況流下能力は、計画高水流量310m<sup>3</sup>/S対し40%程度しかない。</li> </ul>	(a) . b	
地元の推進体制等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用地買収はほぼ完了しており、地権者や地域住民は本事業の趣旨や目的を十分理解していただいております、円滑に事業が進んでいる。</li> </ul>	(a) . b	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想定氾濫区域内には、国道7号・国道280号・JR奥羽本線・津軽線等が通っていることから、氾濫時における交通機関への影響が危惧される。</li> <li>・拡幅された河道内に平常時の滞筋と植生帯を確保し、住宅地に良好な水辺が創出されることにより、地域住民にとつての安らぎの空間が期待できる。</li> </ul>		

## (3) 費用対効果分析の要因変化

A ・ (B) ・ C

区分	主な項目	再評価時	再々評価時	増減
費用項目 (C)	(1)建設費	17,898 百万円	22,672 百万円	4,774 百万円
	(2)維持費	2,188 百万円	3,034 百万円	846 百万円
	(3)残存価値	-86 百万円	百万円	86 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	20,000 百万円	25,706 百万円	5,706 百万円
便益項目 (B)	(1)治水	64,100 百万円	76,136 百万円	12,036 百万円
	(2)残存価値	百万円	112 百万円	112 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総便益	64,100 百万円	76,248 百万円	12,148 百万円
	B / C	3.21	2.97	
費用対効果分析 (B / C)	<p>【費用対効果分析手法】（分析手法、根拠マニュアル等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・治水経済調査マニュアル（案）：平成17年4月（国土交通省 河川局）</li> <li>・各種資産評価単価及びデフレーター：平成20年2月（国土交通省 河川局）</li> </ul>	(a) . b		
計画時との比較	<p>【計画時との比較における要因変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建設費の費用の増は、評価基準年の見直しに伴う増である。</li> <li>・治水の便益の増は、評価基準年の見直しに伴う増である。</li> </ul>	a (b)		

